

事務事業ID 1089		平成 26 年度		事務事業マネジメントシート		平成 26 年 7 月 2 日作成					
事務事業名		施設の維持管理事業(し尿処理事業)		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業					
政策体系	政策名	02自然豊かな環境の保全と創造		事業期間		予算科目					
	施策名	05地域環境の保全と共生				会計	款	項	目	事業	
	基本事業名	03し尿の適正処理の推進		☐ 単年度のみ		06	04	01	01 02	00 00	
根拠法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条、令4、浄化槽法第3条		☒ 単年度繰返 (開始 40 年度～)								
	部課名	気仙広域連合 衛生課		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】							
	課長名	舟野ひとみ		年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入							
所属	係名	総務係		電話		26-3739					
	担当者	刈谷満世		内線		(直通)					
	事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		全体計画(※期間限定複数年度のみ)								
構成市町(大船渡市・陸前高田市・住田町)で排出され、委託業者により収集運搬されたし尿等を処理する施設である衛生センターを維持管理運営していく事業である。		平成22年度からは施設の維持管理を包括的民間委託としている。		当広域連合が行う具体的な業務内容は、次のとおりである。		維持管理業務委託に係る事務、受託業者が行った業務の確認及び指導、維持管理業務委託料の支払事務。		また、し尿の収集運搬委託業者が投入したし尿量及び浄化槽汚泥収集運搬許可業者が投入した浄化槽汚泥量を確認し、委託業者へはし尿処分手数料、許可業者へは衛生センター使用料の納入通知書を毎月発行し、納入を確認している。		なお、平成18年4月より、維持管理経費の受益者負担として住民より徴収しているし尿処分手数料を25円/500から10円/500(くみ取り料金330円に含まれる。)に改正した。	
総投入量		事業費		財源内訳		国庫支出金		都道府県支出金		地方債	
人件費		正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		0		0		0		0		0	

1 現状把握の部(DO)										
(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 平成25年度は仮設住宅及び住宅再建から排出された浄化槽汚泥のほか、復興事業に伴い汲取ったし尿等の搬入量も増えたが、受け入れたし尿及び浄化槽汚泥を全て施設で適正に処理した。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 受け入れたし尿等を全て適正に処理する。委託業者から手数料、許可業者から使用料を徴収する。 維持管理業務の契約について、災害の影響により平成25年度は単年度契約としたが、平成26年度から平成28年度の3ヶ年は長期継続契約とした。				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)						
				名称					単位	
				ア	し尿等受入量				kl	
				イ	施設休止日数				日	
				ウ						
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ・構成市町内で排出され、施設で処理するし尿等 ・し尿処理施設 ・構成市町の住民				⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)						
				名称					単位	
				カ	し尿等処理量				kl	
				キ	1日における公称処理能力				kl	
				ク	構成市町の人口				人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・構成市町内で排出され、収集運搬されたし尿等が公衆衛生面及び環境面上問題のない形に全て処理される。 ・し尿高度処理システムが休止することなく常に良好な状態である。 ・維持管理コストを抑え、構成市町の住民が財政的負担を感じないようにする。				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)						
				名称					単位	
				サ	し尿等処理率(処理量/受入量)				%	
				シ	1日の平均稼働率(処理量/(365日-施設の休止日数)/処理能力130)				%	
				ス	人口1人あたりの維持管理コスト(トータルコスト/人口)				円	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) ・構成市町内で排出され、収集運搬されたし尿等が公衆衛生面及び環境面上問題のない形に全て処理される。 ・し尿高度処理システムが休止することなく常に良好な状態である。 ・維持管理コストを抑え、構成市町の住民が財政的負担を感じないようにする。										
(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	44,626	114,757	136,645	119,005	119,005	119,005	
			事業費計 (A)	千 円	45,417	124,215	146,445	128,505	128,505	128,505
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時 間	1,930	3,544	1,744	3,544	3,544	3,544	
		人件費計 (B)	千 円	7,720	14,176	6,976	14,176	14,176	14,176	
			トータルコスト(A)+(B)	千 円	53,137	138,391	153,421	142,681	142,681	142,681
⑤活動指標		ア	kl	3954	47292	49,002	47,500	47,500	47,500	
		イ	日	335	0	0	0	0	0	
		ウ								
⑥対象指標		カ	kl	3954	47292	49,002	47,500	47,500	47,500	
		キ	kl	130	130	130	130	130	130	
		ク	人	72137	66569	65930	65,401	52,471	42,097	
⑦成果指標		サ	%	100	100	100	100	100	100	
		シ	%	98.1	99.7	103.3	99.0	99.0	99.0	
		ス	円	737	2079	2,327	2,072	2,582	3,218	

事務事業ID	1089	事務事業名	施設の維持管理事業(し尿処理事業)
--------	------	-------	-------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
し尿の処理は、昭和39年にし尿処理行政の効率的な運営を目指して2市2町(現在2市1町)の広域で開始した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
東日本大震災による一時的な下水道処理人口の減少、仮設住宅等の浄化槽汚泥の増加等により、し尿処理人口・量の予測が難しい状況にある。 平成22年度からは施設の維持管理を包括的民間委託としている。 事業費は、住民受益者負担の10円/500と構成市町の負担金でまかなっている。 震災による災害復旧工事において、焼却炉の復旧が困難であったため、電気浸透式脱水機の導入により、脱水汚泥の処分を焼却処分から堆肥化処分(民間業者に委託)としたことで、資源循環に繋がった。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
東日本大震災により、し尿の処理を休止した際は、施設の早急な復旧が望まれた。 平成22年度からは施設の維持管理を包括的民間委託としているが、これにより維持管理コストが上がることはないよう議員から要望が出されている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 構成市町内で排出されたし尿等が公衆衛生面及び環境面上において問題のない形で処理されることは、環境の保全につながるものである。また、震災直後の状況を回想しても、当施設の処理施設が休止することなくし尿等を適正に処理できていることにより住民が安心して快適に暮らせるものと考えられる。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、市町村はその区域内における一般廃棄物を収集、運搬及び処分しなければならないと定められている。当連合は、構成市町である大船渡市、陸前高田市、住田町の区域のし尿の収集、運搬及び処分に関する事務を行うことになっている。※し尿や浄化槽汚泥は、一般廃棄物に区分されている。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 当事業は、構成市町内で排出されたし尿等の処理と施設の維持管理事業であるため、対象は適切である。意図においても廃棄物の処理及び清掃に関する法律に定められており適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 東日本大震災前により下水道供用区域から仮設住宅、高台へと住民の生活圏が移動し、浄化槽汚泥の量が増えている。現在は施設をフル稼働して処理率を100%としており、これらの項目については向上余地はない。また、人口1人あたりの維持管理コストは、浄化槽汚泥の割合の増加により上昇傾向にあるが、施設運営方法を包括的民間委託としたことにより、直営による場合と比較し、今後のトータルコストの抑制ができていると考える。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 廃止又は休止した場合、代替施設が構成市町内にはないため、他地域へ委託することになる。他のし尿処理施設は人口規模に合わせて建設されているため処理量の余力が乏しく、震災の際は一般廃棄物・産業廃棄物の域を超えて県内陸の下水処理施設にも処理をお願いした。民間業者への処分委託となると、現段階では青森県の民間業者への委託となり、運搬費用が莫大となる。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 代替施設がない。(下水道浄化センターは、原尿の取り扱いができない。)また、公共下水道は構成市町内全域に進んでおらず、下水道への移行が地形的に無理な地域もあるため、し尿処理施設は必要である。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 引き続き受託業者へ経費節減の協力を求めているが、直営当時の人件費、薬品等消耗品費、重油等の燃料費等を勘案すると委託料は妥当な額であると考えられる。また、包括的民間委託したことにより、職員の事務量の軽減も図られた。今後、委託業務が適正に行なわれているか、遂行状況を随時確認していく。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 包括的民間委託したことにより衛生課としての事務量の軽減が図られ、広域振興課業務の一部も兼務することにより、広域連合全体としての人件費を削減できた。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 昭和62年施設更新時に、し尿処理に係る経費の10%を目標に受益者負担(処分手数料)を課すことに決定。更新に係る地方債償還が終了のため、平成18年4月から手数料改正を行い受益者負担を軽減し、管内統一料金とした。	

事務事業ID	1089	事務事業名	施設の維持管理事業(し尿処理事業)
--------	------	-------	-------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成22年度から、施設の維持管理を包括的民間委託としたことにより、衛生課としての事務量の軽減も図られ、引き続き直営方式により施設の維持管理を行なった場合と比較し、経費削減に繋がっているものと思われる。 東日本大震災により休止していた施設の復旧工事を終えし尿等の処理を再開したが、今後は施設を休止させることなく、また、公衆衛生面及び環境面においても適正な処理を行うよう努める。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成22年度から施設の維持管理包括的民間委託したことにより、事務の効率性の改善が図られた。今後は、委託業務の遂行状況の適正な確認と、引き続き受託業者へ経費節減の協力を求めるとともに、薬品価格等の情報収集により、委託契約更新時の契約額が適正なものとなるよう心がける。 また、施設設備のうち、今後更新を要するものについてリストアップし、計画的な整備を図っていく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	成果	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
成果	低下		×	×																				
	(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 東日本大震災による施設の復旧工事により、汚泥の処分方法を焼却処分から民間業者へ委託しての堆肥化(資源循環)処分へと変更した。そのため過去の実績のみでは施設の維持管理業務の委託料が適正価格であるかどうかの判断が難しい面もあるため、薬品・薬剤の使用量及び市場価格等についての情報収集をおこなっていく。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	衛生課長	舟野ひとみ

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 平成22年度から直営方式から包括的民間委託したことにより、維持管理経費や事務量の軽減が図られ、適切な事務執行がなされている。																						
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 被災した部分の衛生センターの災害復旧は終了したが、従来のままの機械等もあり、計画的な整備を図り今後も適切な維持管理を行い安定したし尿等の処理に努める。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	成果	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
成果	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
